令和４年１月 27 日
森林総合研究所四国支所

木材利用シンポジウム in 高知 2022 の開催報告

森林総合研究所四国支所では、木材の利用促進のために関係機関と連携して、表記のシンポジウムを開催しました。

１．日時　令和４年１月 25 日（火）13 時 30 分～17 時
２．場所　ちよテラホール（高知市知寄町２丁目）
３．テーマ　「近年の木材利用の動向」
４．参加者数　会場 50 名、オンライン配信 36 名（関係者含む）
５．開催主体
主催：四国土木木材利用研究会、高知大学防災推進センター、（公社）高知県土木施工管理技士会
共催：（公社）土木学会木材工学委員会、森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所
後援：（公社）地盤工学会高知県地盤工学研究会

６．概要
本シンポジウムは四国土木木材利用研究会が中心となり、主催・共催の各機関の連携協力により「近年の木材利用の動向」というテーマで、開催されました。
四国土木木材利用研究会の原忠会長（高知大学防災推進センター教授）の開会挨拶の後、以下のような講演が行われました。

基調講演．森　満範氏（北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場）
「木材の耐朽性評価と関連技術」
木材の腐朽がなぜ起こるのかを生物的要因、環境的要因などについて解説し、それを防ぐにはどうすればよいか、さらに木材の耐朽性を向上させる技術や、耐朽性を評価する手法開発などについて分かりやすく講演しました。

講演１．園田里見氏（富山県農林水産総合技術センター木材研究所）
「大径化した富山県産杉の構造利用技術の開発」
富山県産のスギ植林が大径化して伐期を迎え、スギ材の利用促進が求められる中で、富山県の主要なスギの系統であるボカスギとタテヤマスギの材質に適した構造利用技術の開発について紹介しました。

講演２．塔村真一郎氏（森林総合研究所九州支所長）
「国産材 CLT の開発と普及に向けた取り組み」
欧州で先進的に開発された CLT（直交集成板）を国産材で生産する技術の開発や、国内で利用するための JAS 規格の制定、および利用促進に向けた各方面での取り組んできた経緯について、示しました。

講演３．今井　良氏（北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場）
「北海道における地域材の土木利用と利用拡大に向けた取り組み」

土木分野における木材利用の拡大に向けた取り組みとして、木製ガードレール、高速道路の侵入防止柵、防雪柵など、具体的な事例を数多く紹介しました。

講演４．原田寿郎氏（森林総合研究所木材改質研究領域）
「防耐火からみた建築物の木造化、木質化の進展」
木造建築物の弱点と思われがちな耐火性という観点から、耐火性能を高めた部材を利用したり、建築物の構造を工夫したりすることで課題を解決して、公共施設をはじめとする多くの建造物を木造化、木質化を広く普及させる取り組みを示しました。

参加者は熱心に講演を聞いており、近年の木材利用の動向を掴めるような内容となりました。
なお、本シンポジウムにあたっては、新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の感染者数増加が予測されたため、講演者には１週間前にオンライン講演に切り変えていただき、共催の高知大学もオンライン参加としました。会場参加者は主催団体の一つである高知県土木施工管理技士会の会員に限り、会場収容人数の 3 割以下とするとともに、それ以外の参加者にはオンライン配信を行いました。来場者には事前登録、マスク着用、手指消毒、体調報告などを求め、エアコンによる換気や講演会中に空気入れ替えのための休憩時間を設けるなどの対応をとりました。

シンポジウムの会場の様子